山口市文学碑巡り（No.2）

一の坂川散策

県庁前から東に行くと一の坂川に伊勢橋が架かっています。左岸を 100ｍも下ると寿橋の袂に**“おいとまして　葉ざくらの　かげながく　すずしく”**と詠まれている**山頭火の句碑**があります。句碑の説明に**昭和 9 年 6 月 29 日**の作で、後河原を愛し、**旧田辺家の句会**にはいつも出席していたとありますが、田辺家の所在については何処にあったのか説明は有りません。山頭火の句碑からやや下ると琴水橋の近くに**大内政政弘の歌碑**があります。大内政弘の著した**拾塵和歌集**の中の一首で**“澗底蛍”**と題して**“ほたるかも　菊咲秋に　あらねとも　星をうかふる　谷川の水”**と刻まれています。澗は谷川の意、谷川（一の坂川）に映った蛍の光を星と見立てた歌です。その対岸（右岸）に説明のない作者不明の歌碑が建っています。**“鴻南に寄する歌”**と題して**”柳櫻をこきまぜて　春も錦となりくれば　後河原の枝並に　若き思いを寄する哉“。**左岸に戻り亀山橋まで下ると**大内盛見の歌碑**があります。**”とふほたるをもひのみこそ　しるへとや　み草かくれに　よるはもゆらむ“**。闇夜に飛ぶ蛍は自らの意思のみを道標として飛んでいるが、今、自分は草陰に隠れてやがて夜も明けてしまう。蛍の様に自ら決意を以て不安を乗り越え、道を切り開いていかなければならないと言う思いを詠んだものでしょうか。一の坂川河畔は山口市民の憩いの散歩道です。

山頭火句碑

大内政弘歌碑

詠み人の不明な歌碑

大内盛見の歌碑

（76 期　厚東一生）　　2024.03.18